

学校教育目標	校訓「進取勤勉」 【学ぶ生徒】 【誠実な生徒】 【鍛える生徒】
目指す学校像	「人を愛し 学校を愛し 地域を愛し 愛される学校」 ～希望の登校 笑顔の活動 満足の下校～

重点目標	1 学力向上に関する取組 2 生徒の主体的な取組 3 地域とともにある学校づくりに関する取組 4 安心・安全に関する取組 5 教職員の資質向上に関する取組
------	---

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標							実施日令和8年2月19日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	【学びの質の向上に関する取組】 (現状) ○多くの生徒が学習への意欲が高く、全学年ともに授業規律は整っている。 ○全教科、領域において「話し合い活動」を取り入れた授業を展開し、概ね充実している。 (課題) ○「話し合い活動」の成果を、一人ひとりの「主体的で深い学び」に結び付けられていない場面もある。 ○学力向上をねらいとし、「探究的な学び」の更なる推進を図る必要がある。 ○日々の教育活動において、安全についての意識を高め、広域的な安全教育のさらなる推進を行う。	・基礎学力の目指した授業実践 ・タブレットPCを活用した授業実践と研修会 ・生徒提案による活動の充実 ・避難訓練の充実 ・登下校の安全指導 ・心肺蘇生訓練の実施	①各教科の授業及び学級活動の話し合いにおいて主体的な話し合いが展開できるようスマイル委員会参加者を中心に事前指導を丁寧に行う。ミニ総会を充実させ、生徒総会を成功させる。 ②生徒自らが自分たちの学校生活に満足を感じる教育活動を実施する。 ③教科ごとに指導主事を招聘し、研究授業とともに協議を行い、指導を仰ぐ。 ①避難訓練、引き渡し訓練及び通学路安全点検を実施する。 ②小学校と連携した心肺蘇生訓練の実施を行う。援を行う。	①学校評価「生徒はじしゃく」を意識して、意欲的に授業に取り組んでいますか」における肯定的な回答(教職員)が昨年より(昨年76.6%)とすることができたか。 ②学校評価「日進中は好きか」への生徒の肯定的な回答が昨年同様(昨年90%)とすることができたか。 ③教科ごとの研修会が実施できたか。 ①学校評価B「通学路・登下校の安全は確保されているか」への肯定的な回答が昨年より(昨年92%) ②日進小6年生を招いて訓練を実施する。	①③1学期中間テスト廃止を踏まえ、各教科ともに教科会等で研修を深め、より単元を意識した指導を行い、話し合い活動を適切に取り入れた学習指導を行った。併せて評価も適切に行った。教職員：76.6%→82.5% ②多くの生徒が日々の学習や学校行事に意欲的に取り組むことができ、全学年ともに一人ひとりも学年としても大きな成長が見られた。「日進中は好きか」生徒：90%→90.8% ①避難訓練、引き渡し訓練を適切に実施した。「通学路・登下校の安全確保」92%→97% ②12月3日に実施し充実した活動となった。	A	①一人一台端末を効果的に活用し、自分の考えを仲間と共有したり、自分や仲間の声や動きを分析したりと「探究的な学び」を展開し、学力・体力を高める。 ②学年行事や学校行事を通して、個々の成長につなげ、仲間との協同による達成感を得ることでより集団の成長につなげる。また感動体験を積み重ねることで日進中への帰属意識を醸成する。 ①竜巻等、自然災害に向けた訓練も引き続き実施する。 ②小中連携をより緊密にし、中学生が小学生の模範となるよう充実した取組活動にする。	○登下校の安全指導は概ね達成されているが『心の教育』の必要性があると思う。 ○通常授業では学ぶことができないことを行事などに力を入れることで成果が出ているのではないかと。(行事による教育効果絶大)
2	【子どもの発達や心のサポートに関する取組】 (現状) ○「生徒の、生徒による、生徒のための学校」を確立するために「日進スマイル委員会」が組織され、機能している。 ○「心と生活のアンケート」の他に、学校独自の「いじめアンケート」を定期的に行い、生徒の悩みや変容に気付ける体制を構築している。 (課題) ○様々な理由で不登校傾向となっている生徒に対して、関係諸機関と連携し、支援していく。 ○SNSトラブルについて、継続指導を行う。	・地域とともにある学校づくりの表現 ・学校行事の充実 ・学校と地域が連携した取組の実現 ・学校の主役から地域の主役へ	①学校公開を増やし、生徒の日々の様子を保護者に見ていただく。 ②PTAとの連携を密にし、学校行事等、現状に即した改善策を講じ、昨年度より各行事等をよりよいものにする。 ③来年度が創立80周年となるため、記念式典に向けて準備を始める。	①学校評価の生徒アンケートにおける「学校を楽しんでいると感じていますか」への肯定的な回答が昨年同様85%以上(昨年89.1%)とすることができたか。 ②学校評価「積極的な情報発信」において保護者の肯定的な回答で、昨年同様の高評価を達成することができたか。(昨年97.6%) ③80周年行事に向けて具体的な準備が始まったか。	①学校公開は授業参観を4月に実施、あとは学校行事の体育祭、合唱コンクール、各学年の親子保護者会が学校公開の機会となった。「学校が楽しい」生徒：89.1%→91.2% ②PTA本部役員とは学校行事の際にサポート頂き、連携は概ね良好であった。スクリーンを使って通知を配信した。「積極的な情報発信」保護者：97.6%→98% ③80周年に向けて実行委員会が立ち上がり、準備を進めている。	A	①保護者からの要望もあり、生徒の日々の様子をみてもらえる学校公開日を増やしたい。 ②PTAとの連携は、管理職と教務主任、学年主任が窓口となり、積極的に関わっていく。スクリーンを使っての通知配信は引き続き実施する。 ③80周年記念行事に向けては、実行委員会を中心に日時等、具体的に決めていく。またジャージ改訂に向けては、保護者や地域の声も踏まえて実施していく。	○地域の活動でボランティアをしてくれている生徒がいてとても嬉しいです。そんな生徒がいるんなら角度から脚光を浴びてくれると良い。
3	【地域とともにある学校づくりに関する取組】 (現状) ○目指す学校像「人を愛し、学校を愛し、地域を愛し、愛される学校」の確立に向けて、地域との連携を重視する。「日進七夕まつり」は毎年盛大に行われており、多くの生徒が参加させていただき、卒業生を中心として地域の方々にお世話になっている。 ○学年だより、学校だより、保健だより等の情報は「スクリーン」を通して発信している。 (課題) ○地域に対し、ボランティア活動等、参加できることや場をさらに増やし、地域に貢献する。	・整った教育環境の実現 ・確実な安全点検の実施 ・PCを効果的に活用した教育活動の実施	①月末の安全点検を確実に実施し、施設の破損については事務職員と相談し、速やかに修繕し、対応する。 ②校内の巨大化した樹木について教育委員会に相談し、適切に樹木剪定作業を実施し、環境を整える。	①学校評価「日進中は安全や安心な教育環境整備について、適切に取り組んでいると思いますか」への肯定的な回答を生徒昨年維持(昨年97.5%)、保護者昨年維持(昨年92.2%)とすることができたか。 ②樹木の伐採等、校内環境整備を実施できたか。	①毎月安全点検を実施し、施設設備の破損については事務職員と相談し、速やかに修繕した ②樹木剪定については見直しは行なったが、教室の空調設備の不調により対応する優先順位が下がったため次年度へ持ち越しとなった。「安全や安心な教育環境整備」生徒97.5%→97.2% 保護者：92.2%→95.8% ①特別活動や道徳、総合的な学習の時間の使用は多かったが、各教科においては教科の特性や単元により活用する機会が減少した。「ICTの効果的な活用」生徒：2.56	B	①安全点検の確実な実施とともに、修繕箇所については優先順位を明確にして速やかに修繕につなげる。 ②樹木剪定は大木が倒壊しないか日々点検を行いながら、緑化環境を著しく乱す樹木を剪定につなげるよう市教委にも働きかける。	○環境整備を十分に行うためには予算が必要、学校の努力だけでは無理なので、そこは学校自己評価の対象外にした方が良い。
4	【教育環境の整備に関する取組】 (現状) ○施設の老朽化は否めないが、生徒は清掃を丁寧にを行い、環境を整えている。樹木の管理が難しく、特にプールの衛生環境を保つのが厳しい。 ○PCタブレットが故障修繕の遅れにより不足しているためすべての学級が同時に使用することができない。 (課題) ○体育館・武道場・プールの裏側の樹木の大規模剪定が大きな課題である。 ○PCを効果的に活用すべく、学校DX委員会を中心に工夫し、できることを行っていく。	・「学ぶ教職員」として職務・キャリア段階に応じた研修を実施 ・校内研修の充実	①教職員に対し、打合せ時、職員会議等も活用しながら必要な情報提供を行い、自ら進んで研修に取り組む姿勢を醸成する。 ②当初面談の機会を有効に使い、個々に必要な研修を提案する。	①「学びの指標」の「探究的な学び」の数値が昨年の平均値3.21以上とすることができたか。 ②研修プラットフォームを活用した研修を一人1回以上はできたか。	①「探究的な学び」は微減としたものの、概ね達成している。生徒：3.21→3.13% ②達成面談による確認によれば、文科省オンデマンド配信の研修等活用している者もいるが、それも単発になっている。	B	①令和の日本型教育の柱が「探究的な学び」であるため、今後も各教科、研鑽を積み、すべての教科及び領域において実践していく。 ②「学ぶ教師」であり続けるために、各校の研究発表会にも積極的に参加させ、力をつけさせる。	○講演型の研修より、ディスカッション型の研修の方が意見交換ができて良い。